Osaka University Knowledge Archive

Title	小児看護専門看護師を目指して
Author(s)	米澤, 史恵
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2001, 7(1), p. 44-44
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56702
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

小児看護専門看護師を目指して

米澤　史恵

Enter The Graduate School Aiming At Children's Nursing Specialist

Yonezawa,F

私は大学卒業後、阪大病院小児外科病棟に看護婦として勤務しています。もともと、看護婦を志すきっかけが、筋ジストロフィー症の子ども達や家族が参加するキャンプにボランティアとして参加したことでもあり、小児看護に対して興味がありました。私は、約3年間看護婦として働きましたが、看護婦とは名ばかりで、未熟なことしか出来ておらず、子どもたちに対して申し訳ないと思うことが度々ありました。少しでも役立てるように、また堂々と専門職である看護婦として働いていけるようにと思い、一度、臨床の場から離れてじっくりと学んでみたいと思いました。今まで行ってきたケアが適切であったかどうか、考え直してみたいとという思いもありました。

これまでの3年間を振り返ってみると、病棟で看護婦として働き、子どもたちや家族の方またスタッフと接するなかで、沢山の学びがあったと思います。例えば、病棟で人の死に出会うたびに時間の大切さを痛感し、死とは単に命が絶えるということではなく、家族にとって後々までも心に残る出来事であり、満足いく死であるように、患児だけでなく家族への援助も大切であるということを学びました。また、働くなかで学ぶと同時に、様々な疑問が生じてきました。一番大きな疑問は、子どもが必要な処置を受けることを抵抗するので、子どもを抑制しなくてはならないとき、子どもが納得してその処置を受け入れられるようにするにはどうしたらよいのかということでした。その他にも、面会時間の制限されている子どもを看るとき、面会が制限されることで、どんな影響が、子どもやその家族に及んでいるのだろうかという疑問がありました。これらの疑問は、臨床の場で働くなかで、学びとれることかもしれません。しかし、臨床の場にいることでかえって私自身が気づかないでいることも沢山あるのではないかと思いました。将来、小児における在宅医療に携わりたいという思いもあり、自分の学びの幅を広げるためにも、一度病院の外から、看護って何なのだろうかと、あらためて考えてみたいと思いました。そのような思いから、大学院への進学を決心しました。

将来、看護婦として臨床の場で働きつづけたいという思いもあり、学びの場として小児看護専門看護師コースを有する大学院を選択しました。より臨床に密接した学びが出来ると思ったからです。

日本において、専門看護師制度は近年出来たものであり、看護職者の間においても、専門看護師制度について十分な知識を持っている人は多くありません。専門看護師の役割として、「実践・教育・相談・調整・研究」の5つのことが提示されていますが、歴史が浅い為もあってか、実際のところその位置づけや役割が明確になっているとはいえないと思います。既に、がん看護・地域看護・精神看護の分野においては専門看護師が誕生し、それぞれ活動されていますが、人数が少ないこともあり大変な負担が一人ひとりにかかっているのではないかと思います。また、小児看護専門看護師においても、制度はできあがっていますが、まだ認定された人はおらず、実際のところどのような役割を果たしていくのか明確ではありません。どのような役割を果たしていくかは、その個人の考えに任されているようにも思います。それゆえ、専門看護師になるためには、自分なりのビジョンを持ち、それを明確にしておかないといけないのだろうと思います。このように考えていくと、3年間しか臨床経験がない状態で、小児看護専門看護師コースのある大学院に進学することは、「本当に意味があるのだろうか」、「私のような未熟者が進学してよいのだろうか」という迷う気持ちがときとして生じてきます。その度に、意味があるものになるかどうかは自分次第であり、学べるときに学んでいこうと思うようにしています。大学院は、単なる通過点にしか過ぎず、大学院という場で自分とほぼ同じような立場の人と接するなかで、自分のなかにある何かに気づくことができるのではないかと思います。大学院進学という与えられたチャンスを活かし、看護学という領域のみの学びにとどまらず、人として成長していけるよう、いろいろな経験をふみたいとも思います。医療・看護という場だけでなく、様々な人と接することで、いろんな考えを知り、人間性の向上を図っていけたらと願っています。

将来に対する不安は山のようにありますが、毎日を楽しんでいこうと思います。臨床の場で、子ども達やその家族の方々と接するなかで、彼らが身体的につらい治療に取り組みながらも遊んだりして気分転換をはかり、乗り越えている姿を見て、私は毎日を楽しむことの大切さを教えられました。私は、自分に与えられたチャンスを有効に活かして、ゆとりをもって取り組んでいきたいと思います。ゆとりが無ければ、楽しむことはできないし、いいアイデアも浮かんでこないと思うからです。また、ゆとりがなければ、何か新しいことを試みようという意欲も出てこないでしょう。つねに、ゆとりを持って、自分のペースで歩んでいきたいと思います。

大阪大学医学部附属病院看護部